



2019年3月期 決算説明会



2019年5月20日
証券コード: 1332

お問合せ先:

経営企画IR部経営企画IR課 03-6206-7057

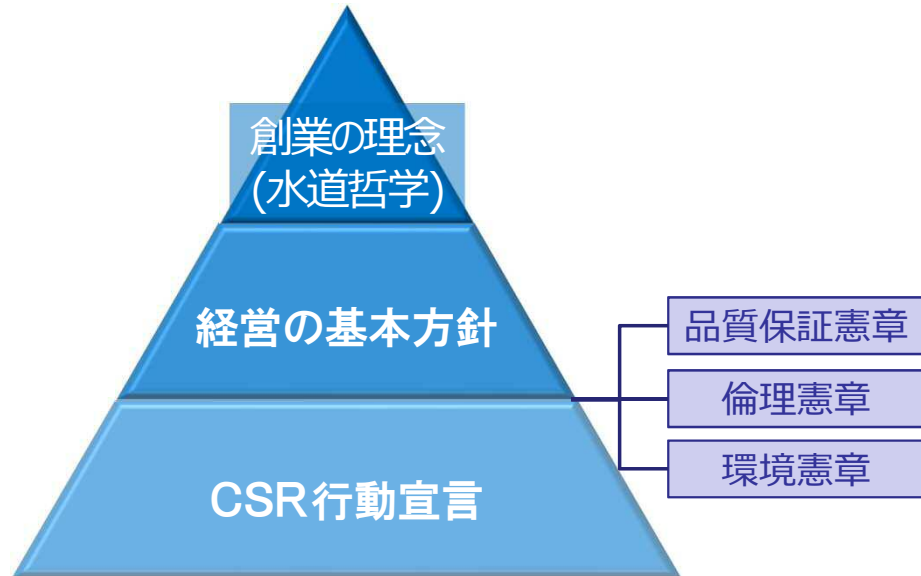
<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

日本水産株式会社

MVIP+(プラス)2020について

経営の 基本方針

私たちは、水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。



3

当社の経営方針は、「水産資源を持続的に利用し、地球環境の保全に配慮しながら多様な価値を創造し、世界中の人々の生活に貢献したい」というものです。

2016年にはCSR行動宣言を定め、「事業を通じて社会の課題解決に取り組んでいく」ことを鮮明にしました。

Global Links

持続可能な水産資源から
世界の人々を健康に

独自の技術を活かし
価値を創造するメーカーを目指す

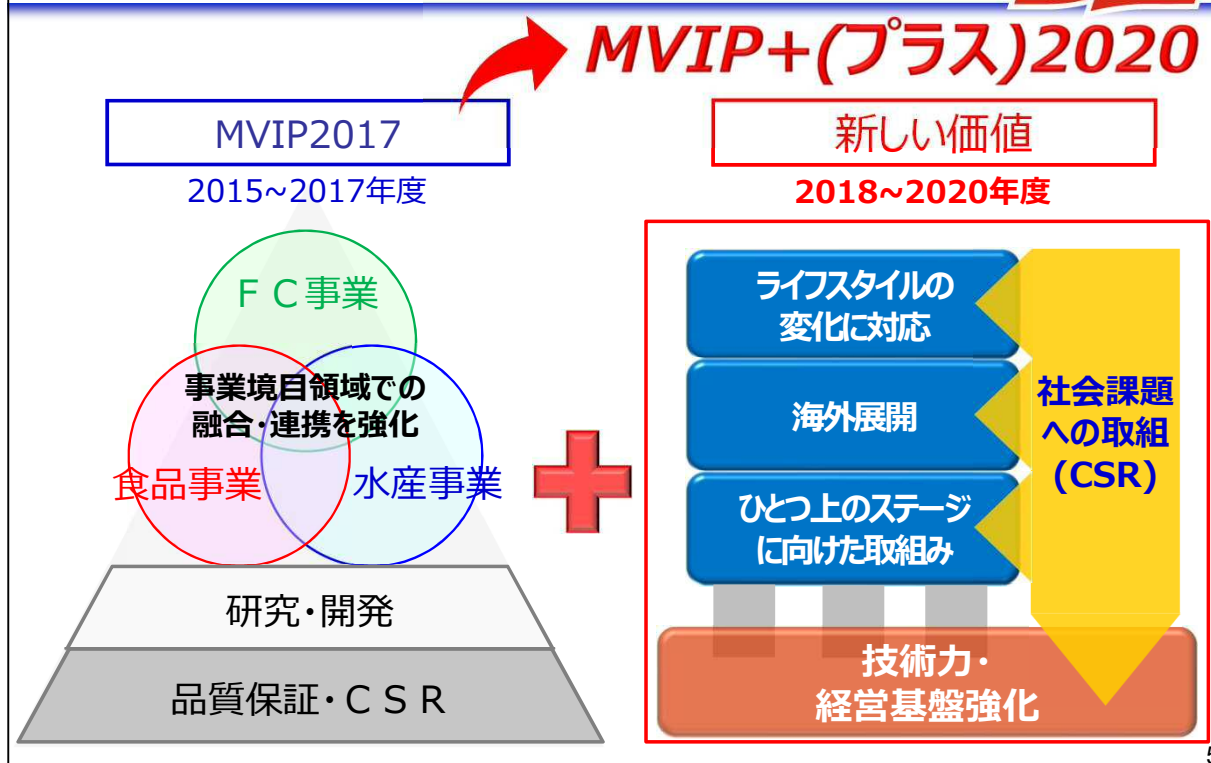


4

現中計の基本的な考え方は、先の経営方針のもとに、
「独自の技術を活かし、持続可能な水産資源から
世界の人々に健康をお届けする。」
こととしています。

水産資源をベースとして、健康をテーマに他社と差別化できる
「独自の技術」を磨き、活かすことで価値を創造し続ける「メーカー」
であることを大事にしたいと考えております。

中期経営計画の考え方



前中計MVIP2017では事業境界領域での融合・連携を強化することを進めてきましたが2018年度から始まったMVIP+(プラス)2020ではこの流れを踏襲しつつ、「新しい価値」をプラスしていきたいと考えております。

具体的には、社会課題への取組を事業と結び付けながら、

- ①ライフスタイルの変化に対応
 - ②海外展開
 - ③ひとつ上のステージに向けた将来への取組
- を進めております。

また、同時に、事業を支える物流インフラ、ガバナンス、リスクマネジメントの推進、人材育成など、経営基盤の強化もすすめております。

ニッスイの1年



技術力強化		4月	養殖魚の体長測定自動化ソリューションをNECと共同開発
ひとつ上のステージ に向けた取組み		5月	豪州最大のえび養殖会社(Seafarms Group Ltd)に資本参加
海外展開		9月	高純度EPA製剤は循環器疾患発症を抑制することが報告される
技術力強化		11月	弓ヶ浜水産（株）「船上山採卵センター」竣工
ライフスタイルの 変化に対応		12月	日本クッカー（株）伊勢崎工場竣工
社会課題 への取組み		2月	経済産業省により「健康経営銘柄2019」に選定
海外展開		3月	黒瀬水産（株）ASC認証ブリの欧州輸出開始 Salmones Antartica トラウトサーモンでASC認証を取得

6

2018年度のニッスイの取組みについて、いくつかご紹介します。

「ライフスタイルの変化への対応」としては、コンビニエンスストアの中食(なかしょく)の需要増加に対応する最新鋭のチルド工場を新設しました。

また豪州最大のえび養殖会社への資本参加など、ひとつ上のステージに向けた海外展開も進めました。

社員の健康を促進し生産効率を上げていく取り組みを評価して頂き、おかげさまで「健康経営銘柄」にも選定されました。

2019年3月期 決算概要

◆計画比では各段階損益とも概ね達成し、売上高・経常利益は過去最高を更新。前期比では昨年の南米鮭鱒養殖事業の稚魚斃死の影響と、ニッスイ個別の約40億円の有価証券売却益の影響があり、営業利益・当期純利益は減益。

(単位: 億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	増減率(%)
			(億円)	(%)		
売上高	7,121	6,772	348	105.1	7,065	100.8
営業利益	216	232	▲15	93.3	220	98.6
経常利益	253	245	7	103.2	235	107.9
当期純利益	153	172	▲18	89.2	160	96.1

売上高・営業利益 推移



配当推移



2018年度決算は、計画をほぼ達成したと考えています。

前期比では、売上高は348億円の増収となりましたが、南米の鮭鱒養殖事業の昨年の稚魚斃死の影響が大きく、営業利益は15億円の減益となりました。

当期純利益は前期に投資有価証券の売却益43億円が含まれていたことから、18億円の減益となりましたが、売上高、経常利益は過去最高を更新することができました。

尚、期末配当につきましては、期初の計画どおり1株あたり4円としています。

2019年3月期 セグメント別概況



◆全事業増収。営業利益では水産・食品事業が減益。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	年間計画比 増減 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	7,121	6,772	348	105.1	7,065	100.8
水産事業	2,899	2,838	61	102.2	2,882	100.6
食品事業	3,423	3,252	170	105.2	3,382	101.2
ファインケミカル事業	265	258	6	102.5	265	100.1
物流事業	166	163	3	101.8	166	100.4
その他	366	259	106	141.1	370	99.0
営業利益	216	232	▲15	93.3	220	98.6
水産事業	102	110	▲7	93.4	98	105.0
食品事業	119	129	▲10	92.2	124	96.0
ファインケミカル事業	26	25	0	102.7	29	90.1
物流事業	19	19	0	103.1	19	104.8
その他	11	12	▲1	89.9	12	96.4
全社経費	▲62	▲64	1	97.0	▲62	101.2
経常利益	253	245	7	103.2	235	107.9
親会社株主に帰属する当期純利益	153	172	▲18	89.2	160	96.1
EPS(1株当たり純利益)	49.41円	55.33円	-	-	51.42円	-

9

売上高合計では、7,121億円、前期比348億円の増収となりました。

事業別に見ると水産事業・食品事業とも日本・欧州を中心に伸長し、

水産事業は、2,899億円、前期比61億円の増収、

食品事業は、3,423億円、前期比170億円の増収となりました。

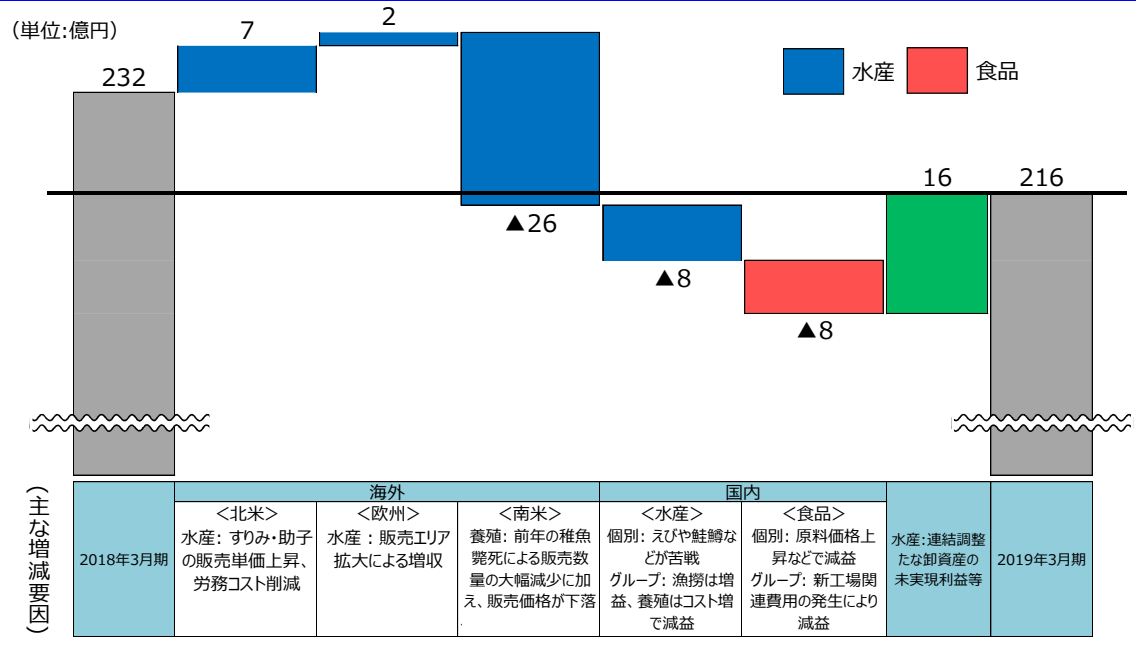
また、その他事業でも、エンジニアリング部門において物流関連の受注が増加したことで366億円、前期比106億円の増収となりました。

営業利益については、次のスライドでご説明します。

主な営業利益増減要因



◆北米・欧州の水産事業が増益となる一方、南米養殖事業の大幅減益に加え国内水産・食品事業が苦戦。未実現利益の調整による好転要素あるも、全体で減益。



営業利益の前期比の主な増減になります。

北米・欧州の水産事業は順調に推移しましたが、南米の鮭鱒養殖事業については、前年の稚魚斃死の影響による販売数量の大幅な減少に加え、販売価格も下落したことから前年比26億円の大幅減益となりました。

国内は、水産・食品事業共に苦戦しました。

しかしながら、在庫に含まれる未実現利益の調整等がプラスに働き、全体としては15億円の減益となりました。

連結貸借対照表(前期末比)



◆売掛債権・在庫が増加したが、現預金を活用し借入金は減少。

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

<p>流動資産 2,476 (▲55)</p> <table border="1"> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>89 (▲137)</td> </tr> <tr> <td>受取手形及び売掛金</td> <td>887 (+40)</td> </tr> <tr> <td>棚卸資産</td> <td>1,287 (+64)</td> </tr> </table>	現金及び預金	89 (▲137)	受取手形及び売掛金	887 (+40)	棚卸資産	1,287 (+64)	<p>流動負債 2,026 (▲101)</p> <table border="1"> <tr> <td>支払手形及び買掛金</td> <td>494 (+47)</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td>1,040 (▲109)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>139 (▲24)</td> </tr> </table>	支払手形及び買掛金	494 (+47)	短期借入金	1,040 (▲109)	その他	139 (▲24)
現金及び預金	89 (▲137)												
受取手形及び売掛金	887 (+40)												
棚卸資産	1,287 (+64)												
支払手形及び買掛金	494 (+47)												
短期借入金	1,040 (▲109)												
その他	139 (▲24)												
<p>固定資産 2,303 (+12)</p> <table border="1"> <tr> <td>有形固定資産</td> <td>1,375 (+47)</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産</td> <td>107 (▲8)</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産</td> <td>820 (▲26)</td> </tr> </table>	有形固定資産	1,375 (+47)	無形固定資産	107 (▲8)	投資その他の資産	820 (▲26)	<p>固定負債 1,090 (▲32)</p> <table border="1"> <tr> <td>長期借入金</td> <td>869 (▲18)</td> </tr> </table>	長期借入金	869 (▲18)				
有形固定資産	1,375 (+47)												
無形固定資産	107 (▲8)												
投資その他の資産	820 (▲26)												
長期借入金	869 (▲18)												
<p>総資産 4,779 (▲43)</p>	<p>純資産 1,661 (+90)</p> <table border="1"> <tr> <td>自己資本</td> <td>1,463 (+86)</td> </tr> <tr> <td>自己資本比率</td> <td>'18/3 28.6% ⇒ '19/3 30.6%</td> </tr> </table>	自己資本	1,463 (+86)	自己資本比率	'18/3 28.6% ⇒ '19/3 30.6%								
自己資本	1,463 (+86)												
自己資本比率	'18/3 28.6% ⇒ '19/3 30.6%												

11

連結の貸借対照表になります。

総資産は、前期末比43億円減の4,779億円となりました。

売上を伸ばしている中、総資産については圧縮することができました。
この結果、自己資本比率は30%を超えております。

連結キャッシュ・フロー(前期比)



◆ 概ね前期並みのフリーキャッシュフローを捻出。

(単位：億円)

	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	246	261	▲ 15
・減価償却費 (のれん償却含む)	185	180	5
・運転資本	▲ 83	▲ 58	▲ 25
・法人税等の支払額	▲ 80	▲ 63	▲ 17
・その他	▲ 19	▲ 36	17
営業活動によるCF	246	283	▲ 36
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 229	▲ 278	48
・その他	61	62	▲ 0
投資活動によるCF	▲ 168	▲ 215	47
・短期借入金の増減額	▲ 119	▲ 11	▲ 107
・長期借入金の増減額	1	▲ 29	31
・その他	▲ 42	▲ 40	▲ 1
財務活動によるCF	▲ 159	▲ 81	▲ 78
現金及び現金同等物の期末残高	161	243	

12

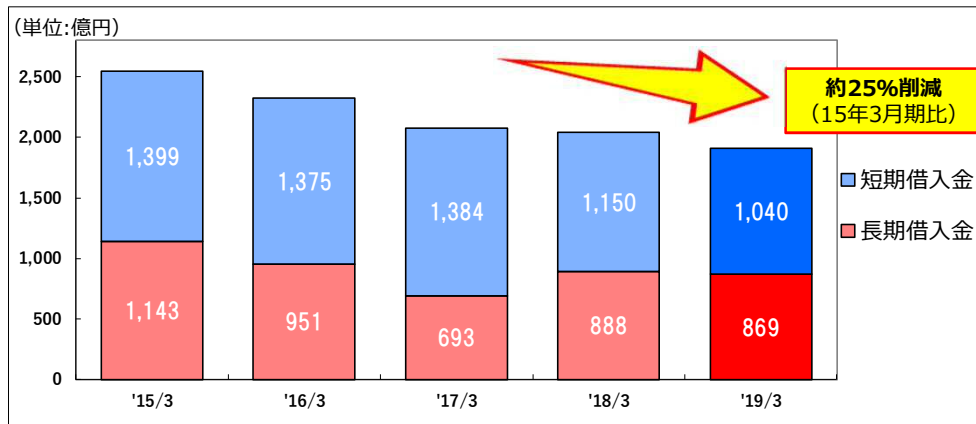
連結のキャッシュフローになります。

営業キャッシュフローは運転資本の増加等により多少減少しましたが、設備投資の減少もあり、概ね前期並みのフリーキャッシュフローを確保できました。

連結借入金の推移



◆借入金は順調に削減が進む。



(単位:億円)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	(増減)
借入金合計	2,543	2,326	2,077	2,038	1,910	▲128
短期借入金	1,399	1,375	1,384	1,150	1,040	▲109
長期借入金	1,143	951	693	888	869	▲18

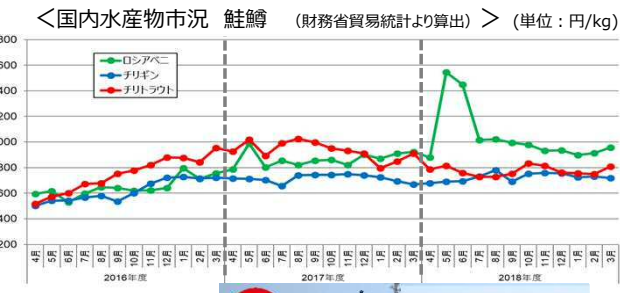
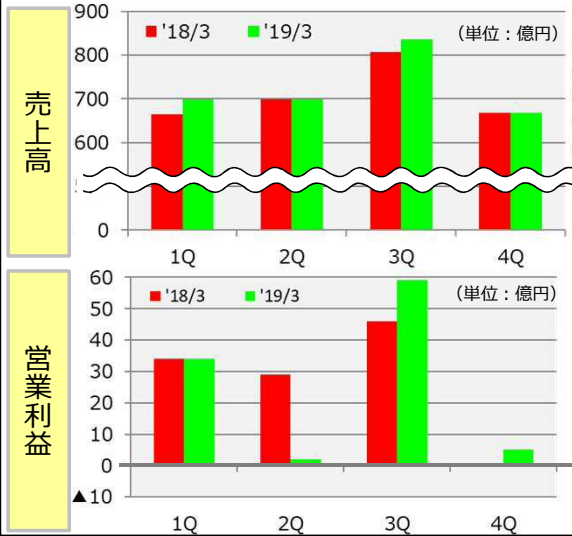
13

連結の借入金の推移になります。

当期末の借入金は1,910億円となり、前期末比で128億円減少し、順調に削減が進んでいます。

◆北米・欧州事業や漁撈事業は増益も、養殖事業の影響により減益。

(単位：億円)	2019年3月期		2018年3月期		対前期比増減		2019年3月期	増減率
	実績	実績	(億円)	(%)	年間計画	(%)		
売上高	2,899	2,838	61	102.2	2,882	100.6		
営業利益	102	110	▲7	93.4	98	105.0		



漁業船の全面改装
↓
操業時の安全確保や生産性向上を図る

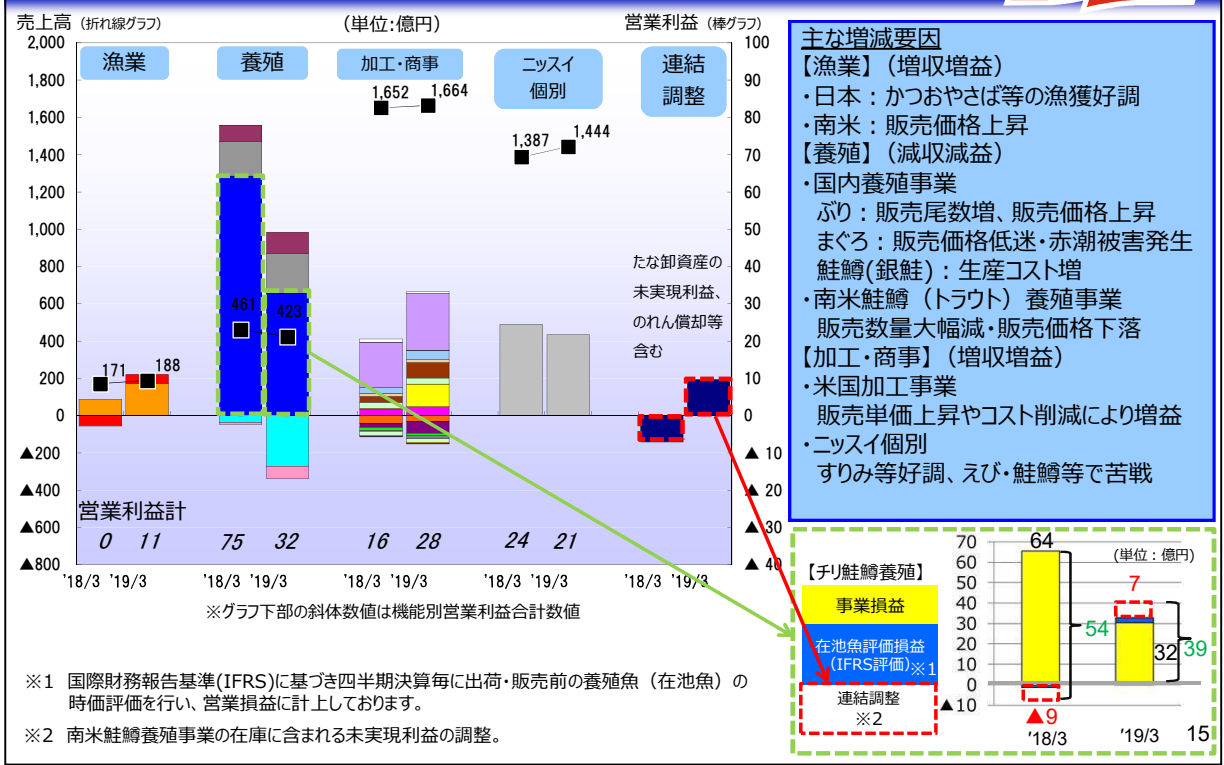


ここからは、各事業について、ご説明します。

水産事業は、前期比で売上高は61億円の増収でしたが、営業利益は7億円の減益となりました。

詳細は次のページ以降でご説明します。

水産事業 売上高・営業利益(前期比)



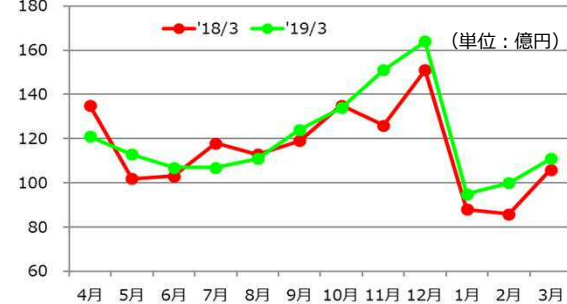
【漁業】では、日本でかつおやさば等の漁獲が好調で増収増益となりました。

【養殖】では、繰り返しになりますが、南米の鮭鱒での減益が大きく影響しました。
 また国内の養殖は、黒瀬ぶりは非常に好調なもの、まぐろは販売価格の低迷や赤潮被害の影響があり、また銀鮭も生産コストが増加し苦戦しました。

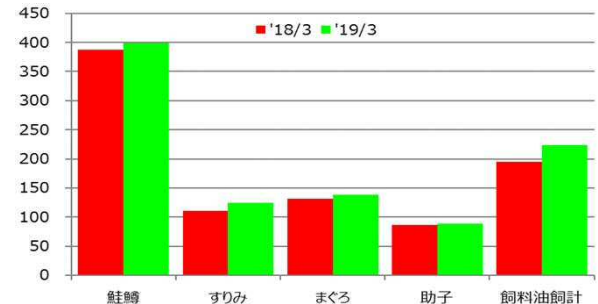
【加工・商事】では、北米のすけそうだらの加工事業が、販売単価の上昇やコスト削減の効果で増益となりました。

◆売上は順調に推移。利益は上期苦戦も下期から回復傾向に。

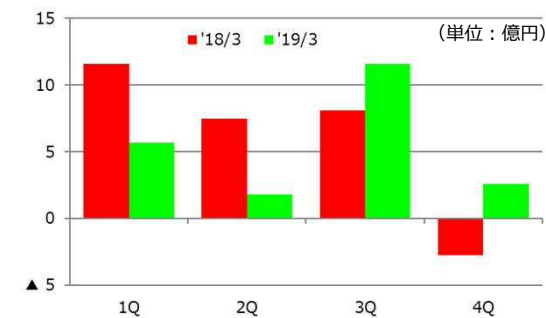
＜売上高(月別)＞



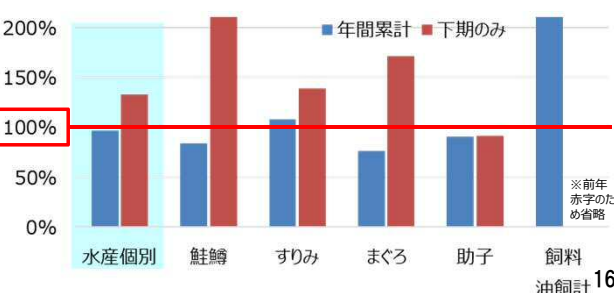
＜主要魚種別 売上高(前期比)＞



＜営業利益(四半期別)＞



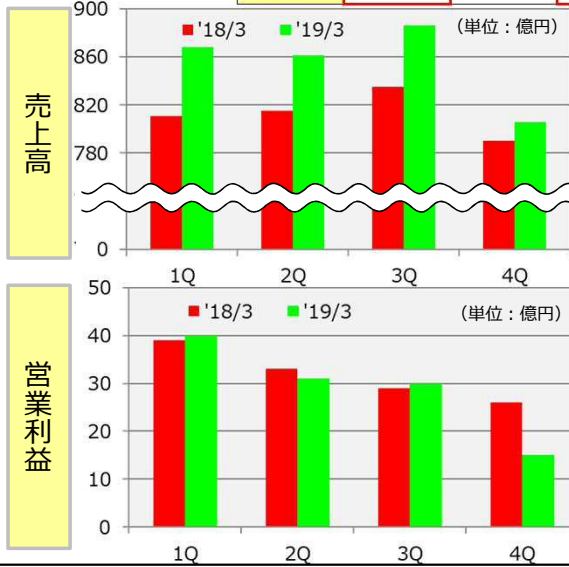
＜主要魚種 利益進捗率(前期比)＞



ニッスイ個別については、主要魚種で売上を伸ばし前期比増収となりましたが、えび・鮭鱒などで苦戦し減益となりました。
 なお、下期からは利益率も回復傾向にあります。

◆原料価格や物流費などの影響に加え、チルド事業の新工場関連費用もあり減益。

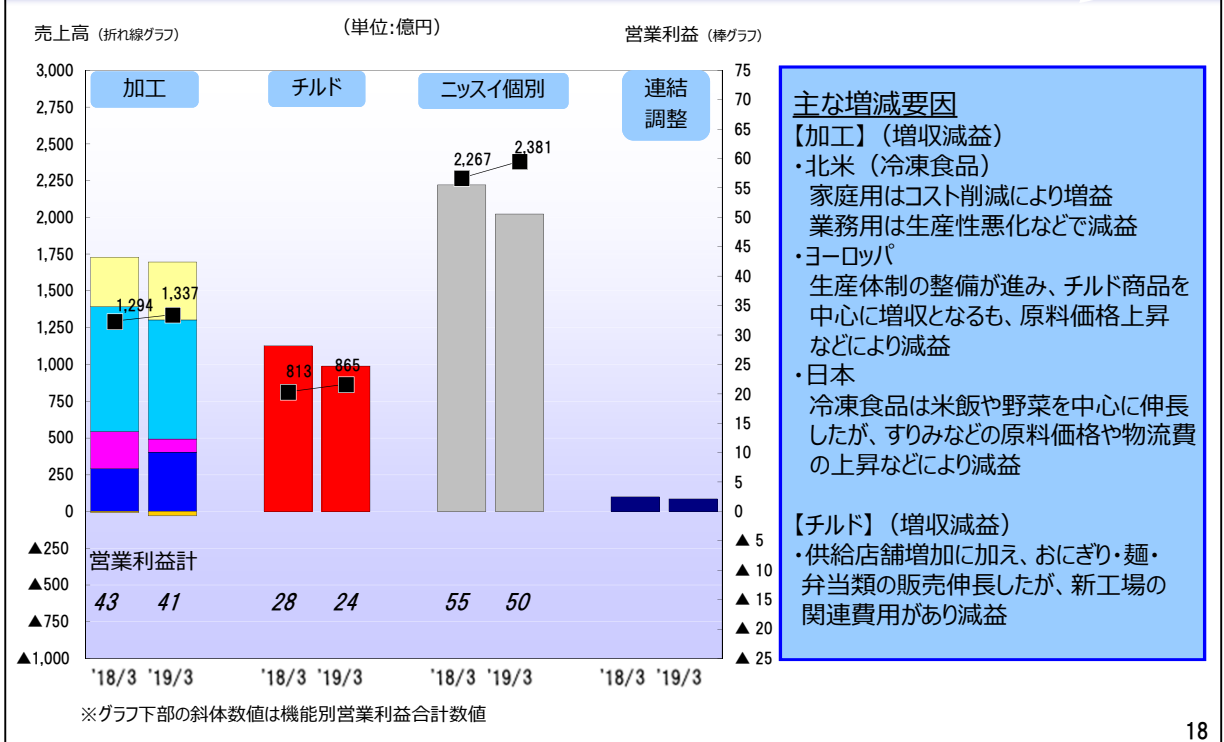
(単位：億円)	2019年3月期	2018年3月期	対前期比増減		2019年3月期	増減率
	実績	実績	(億円)	(%)	年間計画	(%)
売上高	3,423	3,252	170	105.2	3,382	101.2
営業利益	119	129	▲10	92.2	124	96.0



食品事業は、前期比で売上高は170億円の大幅な増収でしたが、営業利益は10億円の減益でした。

詳細は次のページ以降でご説明します。

食品事業 売上高・営業利益(前期比)



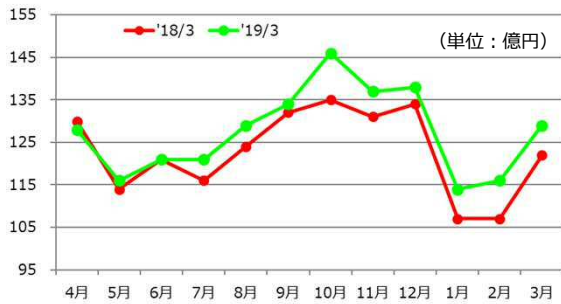
【加工】では、北米の家庭用冷凍食品でコスト削減効果により増益でしたが、業務用冷凍食品で生産性の悪化などもあり、北米トータルでは概ね前期並みとなりました。

ヨーロッパでは、生産体制の整備が進み、チルド商品を中心に増収となりましたが、原料価格の上昇などがあり、前年並みの利益となりました。

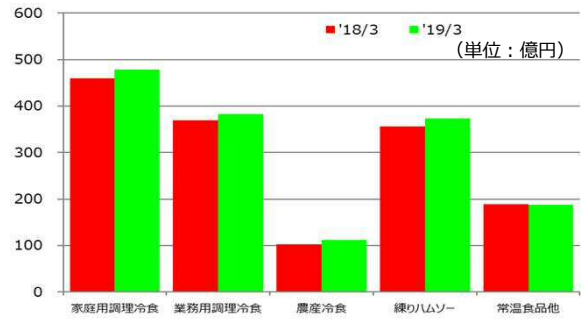
【チルド】では、コンビニエンスストア再編による供給店舗の増加に加え、おにぎり・麺・弁当類の販売も伸長しましたが、群馬県伊勢崎市に新設した工場の立ち上げコストがあり減益となりました。

◆各カテゴリーで増収も、すりみなどの原料価格の上昇の影響が出始めた。

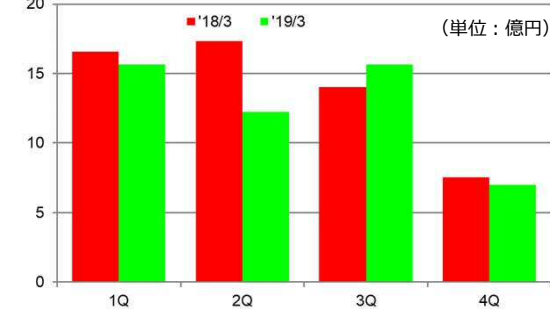
<売上高(月別)>



<カテゴリー別 売上高(前期比)>



<営業利益(四半期別)>



<販売好調な商品>

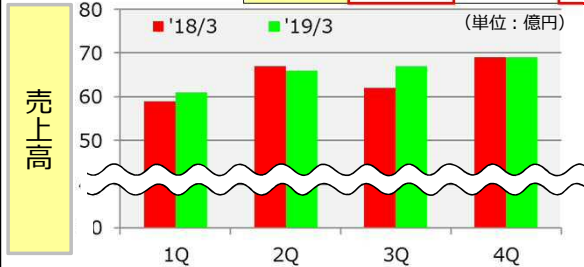
梅ひじき
枝豆こんぶ
SABA
かにかま

食物繊維の多いもち麦入りおにぎり
簡便かつ健康を訴求した商品
(かにかま調理例)

ニッスイ個別については、各カテゴリーとも増収となりましたが、すりみなどの原料価格や物流費の上昇などにより減益となりました。

◆機能性原料の伸長や広告宣伝費の削減あるも、利益は前年並み。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	増減率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	265	258	6	102.5	265	100.1
営業利益	26	25	0	102.7	29	90.1



主な増減要因

【ニッスイ個別】

- ・機能性原料：国内外で販売増加
- ・機能性食品：通販事業の広告宣伝費の削減

【グループ】

- ・診断薬事業が好調に推移するも、化粧品事業売却の影響などにより減益



＜イマークシリーズ累計販売本数＞

2019年3月末で約8,800万本突破

→ 2020年の1億本突破を目指す



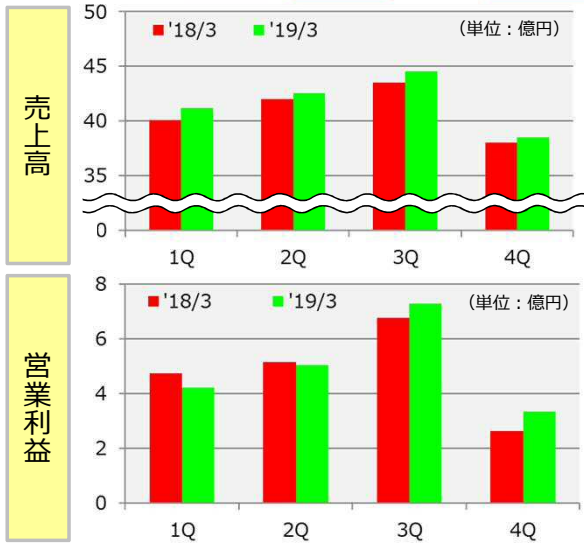
ファインケミカル事業は、前期比で売上高は6億円の増収でしたが、営業利益はほぼ横ばいとなりました。

【ニッスイ個別】では、健康食品メーカーや乳児用粉ミルクメーカー向けにEPA・DHAなどを供給する機能性原料ビジネスで、国内外の販売を伸ばしました。また、イマークを始めとする通販事業では、昨年大きく掛けた広告宣伝費を当期は効率的に使用し、利益を確保しました。

【日水製薬】では、診断薬事業は好調に推移しましたが、昨年の化粧品事業の売却等の事業の見直しなどの影響で、減益となりました。

◆平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収・増益。

(単位: 億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	増減率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	166	163	3	101.8	166	100.4
営業利益	19	19	0	103.1	19	104.8



主な増減要因

- ・平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収
- ・労務費や電力料などのコスト増加

＜日水物流・平和島物流センター＞



物流事業は、平和島冷蔵庫の営業再開もあり、前期比で増収となりましたが、労務費や電力料などのコスト増加の影響もあり、若干の増益にとどまりました。

2020年3月期 計画

◆主として養殖事業の回復や拡大を見込み、各段階損益とも過去最高を更新する計画。なお、売上高はチルド事業の取引形態の変更により減収。配当は1株あたり8.5円と増配を計画

(単位：億円)	2020年3月期 計画	2019年3月期 実績	対2019年3月期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	7,100	7,121	▲21	99.7
営業利益	240	216	23	110.7
経常利益	265	253	11	104.5
当期純利益	175	153	21	113.8

※チルド事業の取引形態の変更
…2019年2月よりセンターフィー（販売費）と売上高を相殺する価格決定方式に変更となった。この影響で約70億円売上高が減少する見込み。

為替レート・配当推移

	2020年3月期 計画レート	2019年3月期 実績レート	変動率
米ドル (USD)	110.00円	110.36円	▲0.3%
ユーロ (EUR)	127.00円	130.01円	▲2.3%
デンマーククローネ (DKK)	17.00円	17.44円	▲2.5%



23

今期の計画についてご説明します。

今期は売上高7,100億円、営業利益240億円を計画しています。

養殖事業の回復や拡大を見込んでおり、各段階損益は過去最高を更新する計画です。なお売上高は、チルド事業の取引形態の変更の影響が70億円程度あることから、見た目は減収ですが、実質的には増収の計画です。

また配当につきましては、1株あたり8.5円と2018年度から50銭増配の計画です。

◆ 国内外の養殖事業に加え、国内・北米の食品事業の収益改善もあり増益計画。

(単位：億円)	2020年3月期 計画	2019年3月期 実績	対2019年3月期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	7,100	7,121	▲21	99.7
水産事業	2,987	2,899	87	103.0
食品事業	3,449	3,423	25	100.8
ファインケミカル事業	281	265	15	106.0
物流事業	173	166	6	103.8
その他	210	366	▲156	57.4
営業利益	240	216	23	110.7
水産事業	134	102	31	130.2
食品事業	129	119	9	108.3
ファインケミカル事業	27	26	0	103.3
物流事業	20	19	0	100.5
その他	5	11	▲6	43.2
全社経費	▲75	▲62	▲12	119.6
経常利益	265	253	11	104.5
親会社株主に帰属する当期純利益	175	153	21	113.8

今期の事業別の売上高は、

水産事業は、2,987億円で、前期比87億円の増収、
食品事業は、3,449億円で、チルド事業の取引形態
の変更の影響を加味すると、前期比約100億円の増収、
ファインケミカル事業は、281億円で、前期比15億円の増収
を計画しています。

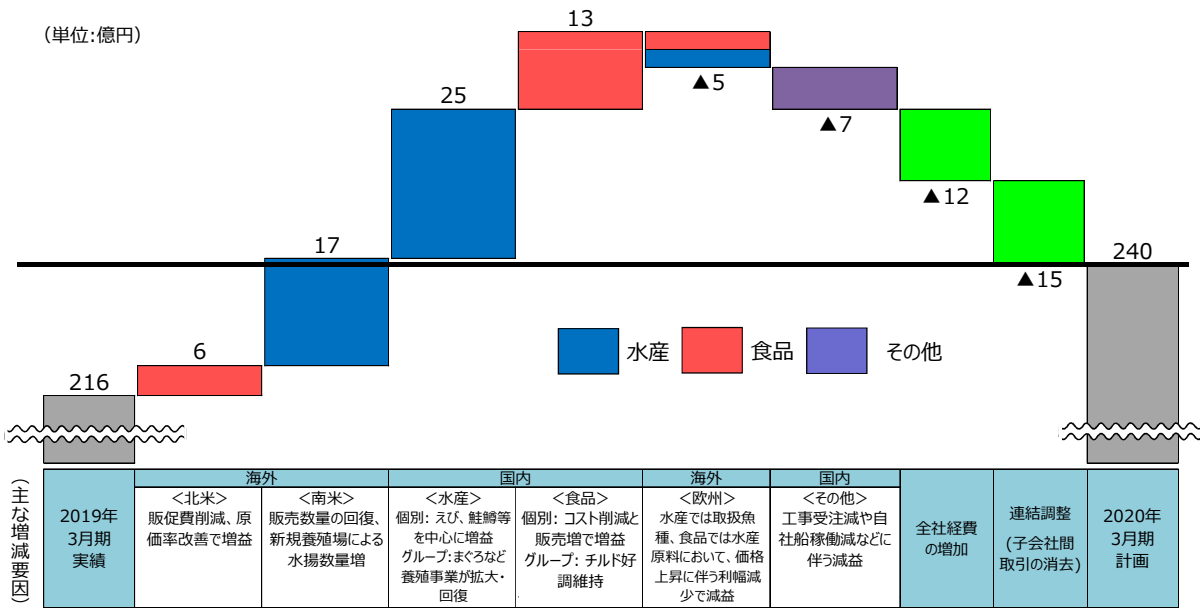
その他の事業で減収となりますが、全体では7,100億円を計画
しています。

営業利益については次のページでご説明いたします。

主な営業利益の増減見通し



◆国内・南米の養殖事業の回復に加え、ニッスイ個別の食品事業の増益があるも、
 全社経費等の増加もあり、23億円の増益に留まる計画。



19年度の営業利益の主な増減要因を示すウォーターフォールです。

水産事業では、昨年苦戦した南米鮭鱒養殖事業のフル生産、まぐろ養殖事業の回復、またニッスイ個別でのえびや鮭鱒の販売数量の増加による増益を見込んでおります。

食品事業では、ニッスイ個別でコスト削減と販売増による増益を見込んでおり、

連結の営業利益は23億円増益の240億円(前期比約11%増)を計画しています。

持続可能な水産資源から世界の人々を健康に

～独自の技術を活かし価値を創造するメーカーを目指す～

水産

- 養殖事業の**規模の拡大**と**養殖成績の安定化**により成長
- **独自の技術力**を活かし、**差別化**(白身魚たんぱく等)を進め、付加価値商品を拡大し収益力強化

食品

- 即食・簡便や健康訴求の商品群を更に展開。**ライフスタイルの変化への対応力**を強化する
- **生産性や商品力の向上**を通じて、収益力を高める

ファインケミカル

- **高純度EPAの海外展開**のための最終段階をしっかりと進める
- 欧州で高まる**DHAの需要増**に対応する



CSR



- ①健康経営
- ②フードロス削減
- ③水産資源調査
- ...など



「**海洋プラスチック**」への
取り組みスタート

2019年度の具体的な施策です。

中期経営計画で掲げた「持続可能な水産資源から世界の人々を健康に」の実現に向け、水産・食品・ファインケミカル各事業を成長させるとともに、海洋プラスチックやフードロスなど、ニッセイを取り巻く様々な社会課題にしっかりと取り組んでいきます。

次のページから、各事業の打ち手についてご説明いたします。

魚種の充実・差別化、生産基盤の安定による養殖事業の強化

養殖魚種の充実

事業資産取得で規模拡大

熊本県
天草市

ぶり	まだい			
その他の養殖魚種	チリトラウト	豪州えび seafarms	まぐろ	銀鮭
かんぱち	陸上えび	すま	さば	たこ

更なる種苗管理

安定した飼育
期間の確保

養殖コストの
削減

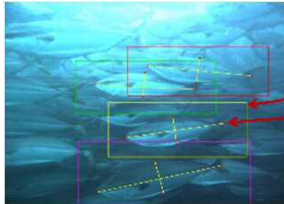
ぶりの稚魚	銀鮭
採卵の多回数化	育種による性能向上 (2018年11月 採卵センター竣工)

水産事業では、養殖をより強化するため、規模の拡大を進めてまいります。

そのポイントは、養殖魚種の充実と、
更なる種苗管理による差別化と安定化と考えています。

異業種との協働による養殖技術の進化 加工技術で付加価値商品を拡大

養殖技術で差別化



AI技術による魚体検知システムで、人手をかけずに魚体重を把握



海上プラットフォーム

自動給餌機

海底の配管から補充

飼料を自動給餌機に自動補充し、作業者も安全確保

独自の加工技術で差別化



浸漬技術で美味しさをキープしたえび商材



白身魚をミンチ状にし、肉のように扱える商材

28

養殖の拡大に加え、水産事業の収益性を高めるためには、養殖の技術革新に加え、加工技術の進化による差別化が重要と考えています。

養殖技術については、異業種の力もお借りしながら、生産性の高い養殖事業への転換を考えております。

また、水産資源の本来の美味しさを引き出す新しい漬込み技術を活かした商品など、当社独自の加工技術で差別化した商品を提供してまいります。

アニサキスフリーのさばを安定供給するための開発に着手



日立造船(株)

マサバ養殖の知見

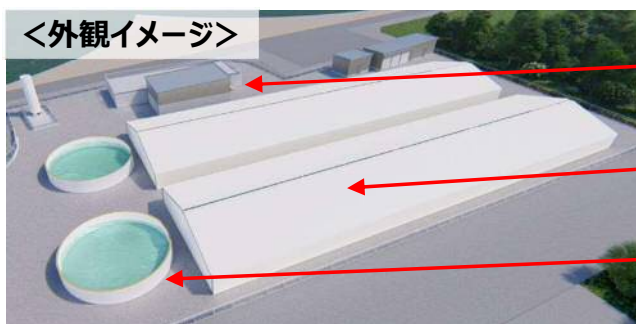
水処理技術



- 水温・水質を人為的にコントロール
- 外海の海水を使用しないため、アニサキスなどの寄生虫や魚病などのリスク低減が期待できる

国内初となる大規模なマサバ循環式陸上養殖の共同開発に着手

持続可能な水産物の安定供給への寄与



<所在地>

鳥取県米子市淀江町

養殖事業の差別化の具体例として、鳥取県で取り組みを始めた さば陸上養殖 をご紹介します。

この、さば陸上養殖では、様々なメリットが得られることが期待されていますが、中でも、お客様に喜んでいただけるよう、アニサキスフリーのさばを2023年から出荷できるよう、具体的に着手致しました。

ライフスタイルの多様な変化への 対応力を上げる

中食市場への対応強化

調理の手間を軽減できる
商品を提案



海外会社で取組む即食・簡便な調理品

冷凍野菜の拡大

より簡便性を高め
供給を増やす



2019年1月より
台湾枝豆工場増設



健康訴求

水産たんぱく質や食物繊維を美味しく手軽に提供



グルテンフリーの
白身魚調理品

30

食品事業では、女性の社会進出の促進に代表される
ライフスタイルの多様な変化に対応する商品の拡大・強化を
国内外とも進めてまいります。

即食・簡便調理に加え、健康を訴求した商品のラインナップを
増やしていきます。

成長エリア・カテゴリーに対応した生産能力の拡充に加え、生産性向上を更に進める

(欧州)加工会社の買収

生産拠点の拡大と効率的な生産体制の構築



白身魚に加え、えび加工品など商品カテゴリーを拡大

(国内チルド)新工場

需要拡大に対応するためのチルド工場新設



自動化・省人化により生産効率性が向上

(北米)設備維持更新

生産工程の自動化と多品種少量生産への対応



大規模リニューアル工事を実施、更なる省人化を図る

また、食品事業では、生産機能を強化し、需要拡大への対応と自動化を含めた効率的な生産体制の構築を図ってまいります。

次のページで、生産機能の自動化の一例として、チルド事業における新工場ラインの一部を動画でご紹介いたします。

海外展開に向け、生産・品質・供給 の面で準備を急ぐ

高純度EPAの海外展開の準備



cGMP^(※1)の認定
取得やDMF^(※2)への
登録など、海外に
展開する様々な
準備を進めていく



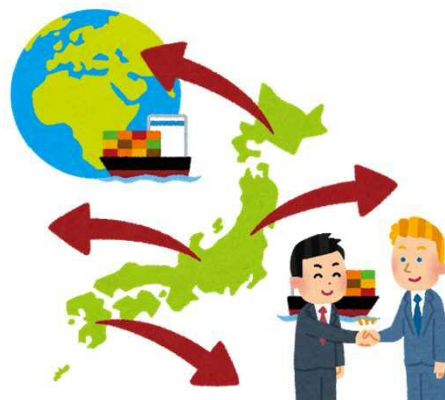
cGMP[※]認証

※ cGMP・・・米国で適用され
る医薬品適正製造基準



※ DMF・・・米国FDA(食品医薬
品局)による医薬品等登録原簿

欧州でのDHAの需要増 に供給体制強化で対応



33

ファインケミカル事業は、海外における需要の増加が見込まれる中で、

cGMP体制の確立のなど、高純度EPAの海外展開に
向けた準備を粛々と進めております。

また、ヨーロッパでの粉ミルクに添加する DHA の需要の増加を見据えた
原料調達の強化を進めております。

事業を通じて、社会課題解決に取り組み、成長と企業価値の向上を目指す

海洋プラスチックへの取組開始

12 つくる責任 つかう責任	14 海の豊かさを 守ろう



フードロス削減の取り組み

2 廃棄を ゼロに	12 つくる責任 つかう責任

缶詰や冷凍食品などの賞味期限年月表示検討



健康経営の推進

3 すべての人に 健康と福祉を	8 働きがいも 経済成長も

社員のこころとからだの健康増進施策を継続



事業を通じて様々な事業課題に取り組んでまいりますが、なかでも3つの取組みについてにご説明します。

海洋プラスチック問題についての 目標設定と体制を整備



海洋へのプラスチック 流出を抑制



マイクロプラスチックの河川への流入状況調査への協賛

プラスチック資源循環 代替品研究/導入



環境負荷の低い容器包装を使用した商品の開発や利用

従業員の意識向上



水源を守る森林保全活動や環境学習の推進

海の恵みをいただいている当社としては、海洋プラスチックの問題は、取り組むべき重要な課題だと考えております。漁業・養殖事業での使用状況の把握や従業員の意識向上など、目標を設定し体制を整え、しっかりと進めて参ります。

サプライチェーン全体を通じたフードロスの取組み



健康でいきいき働く職場の実現



喫煙所の縮小・閉鎖の拡大



...



37

フードロスの削減への取組として、廃棄物の削減や賞味期限の年月表示などに取り組んでまいります。本年7月より、缶詰は賞味期限の表示を年月表示に変更いたします。

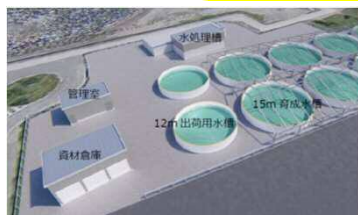
また冒頭申し上げましたが、昨年は健康への取り組みをご評価頂き、健康経営銘柄に選定頂きました。

引き続き社員の心と体の健康増進への取り組みを続けて参ります。

◆成長させる事業へ投資を継続



※2019年度予想額
※数値は完成ベース



マサバ陸上養殖
施設新設

養殖事業の
進化・拡大



日水物流
舞洲BC2期工事

関西地区の物流
基盤強化を進める



加工工場新設

ライフスタイルの
変化に対応



本社工場のリニュー
アル工事開始

設備維持更新
で生産性向上

2019年度の設備投資は、

ライフスタイルの変化に対応した、中食(なかしょく)商品の需要の増加を見据え、タイにおいて加工工場を新設します。

また、生産性向上のための、北米冷凍食品工場のリニューアル工事など、中計の方針に沿って投資を実施予定です。

キャッシュ・フロー

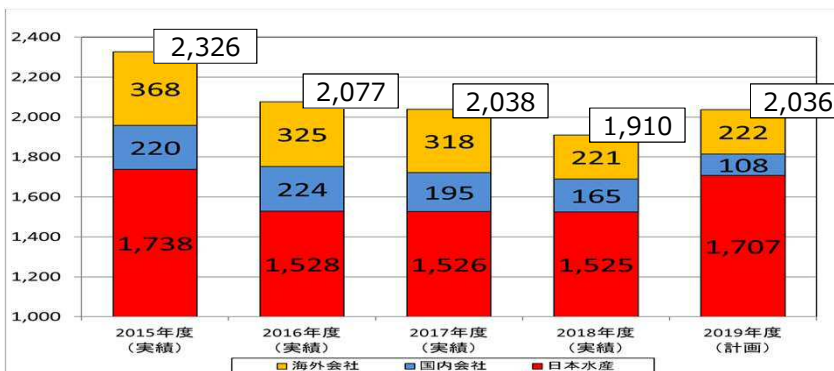


◆成長のための設備投資を拡大。

	2019年度計画	2018年度実績	増減
営業活動によるキャッシュフロー	257 億円	246 億円	10 億円
投資活動によるキャッシュフロー	△327 億円	△168 億円	△160 億円
財務活動によるキャッシュフロー	84 億円	△159 億円	244 億円

期末現金残高	102 億円	89 億円	13 億円
--------	--------	-------	-------

【借入金推移】 (単位: 億円)

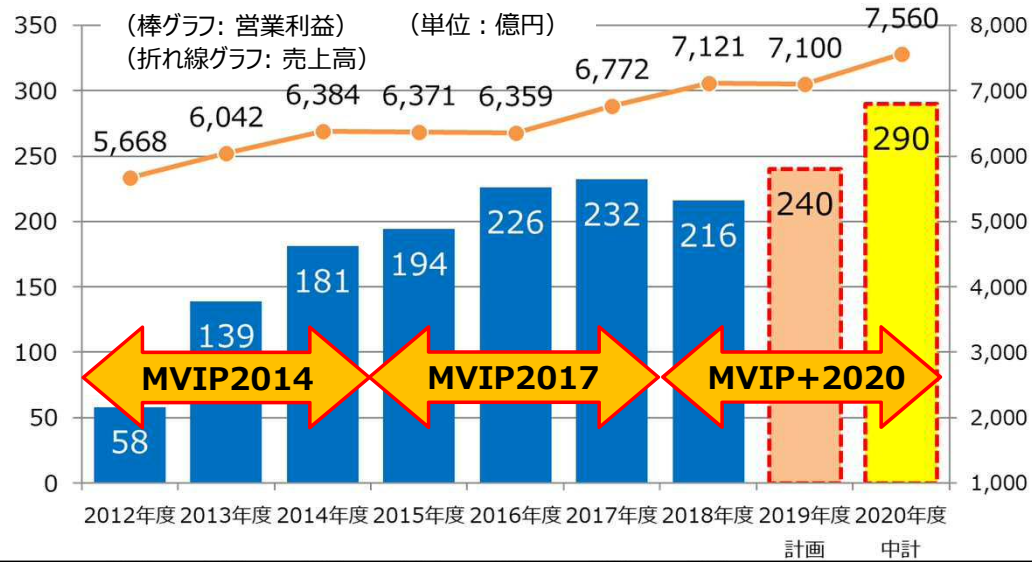


39

2019年度のキャッシュフローと借入金の見込です。

先程申し上げました成長のための設備投資を積極的に行う予定で、若干借入金は増える見込みです。

◆国内外とも不透明な要素が多い中、中期経営計画MVIP+2020達成に向け概ね計画通り進行中。
 事業を通じた社会課題解決を進めるとともに、成長に向けた取組みのスピードを上げ、企業価値向上を図る。



国内外とも不透明な要素が多い中、中期経営計画の達成に向けて、概ね計画通りに推移していると考えています。
 これまでご説明してきましたとおり、成長に向けた取組みのスピードを上げ、企業価値向上を図ります。

Global Links

2019年度は米中貿易摩擦を始めとする
国内外の不透明なリスクがありますが、
成長投資を継続しつつ、自己資本の充実・株主還
元のバランスを取りながら経営を進めてまいります。

41

最後になりますが、中計の中間年となる2019年度は、
国内は雇用環境の改善が続く一方、物流費・人件費の増加や
消費税増税の影響が懸念されます。

また、海外は米中貿易摩擦などの通商問題や
政治・地政学リスクの影響が懸念されます。

そのような中、当社は成長に向けた投資を行いながら、事業リスクに備えた
筋肉質な体質を目指して自己資本の充実を図ってまいります。
また、配当性向15%~20%も同時に実行してまいります。

2020年度の営業利益290億円の達成に向け、邁進いたします。

引き続き、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。
ご清聴ありがとうございました。

見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2019年5月20日

証券コード： 1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>



参考資料

【参考】 連結損益計算書(前期比)



◆ 前期比で増収・減益。

	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	7,121	6,772	348	
売上総利益	1,387	1,399	▲ 12	
販売費・一般管理費	1,170	1,167	2	
営業利益	216	232	▲ 15	
営業外収益	55	36	19	持分法による投資利益(+14)
営業外費用	18	22	▲ 3	
経常利益	253	245	7	
特別利益	11	53	▲ 41	投資有価証券売却益(▲39)
特別損失	18	37	▲ 18	災害による損失(▲6) 減損損失(▲6)
税金等調整前当期純利益	246	261	▲ 15	
法人税等	61	79	▲ 17	
法人税等調整額	21	0	21	
当期純利益	163	182	▲ 19	
非支配株主に帰属する 当期純利益	9	9	0	
親会社株主に帰属する 当期純利益	153	172	▲ 18	

※当期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用については、各社の決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前期連結累計期間との比較を行っている。

【参考】 為替換算による影響額(売上高)



◆米ドルで大きな影響はあるも、通貨全体としての為替影響は僅か。

主要在外会社の 為替換算レート	2019年3月期 実績		2018年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,092	1,205	1,151	1,291	▲59	▲86	▲66	▲19
EUR(百万ユーロ)	266	345	239	305	26	40	32	7
DKK(百万クローネ)	3,157	550	3,023	518	134	32	21	10
その他通貨	-	235	-	201	-	34	32	1
計		2,337		2,316		20	21	▲0

【参考：為替レート】

	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	変動率
米ドル (USD)	110.36円	112.04円	▲1.5%
ユーロ (EUR)	130.01円	127.22円	2.2%
デンマーククローネ (DKK)	17.44円	17.10円	2.0%

【参考】セグメントマトリックス 売上高(前期比)



◆日本・欧州が伸長。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,429 (76)	444 (▲25)	218 (▲30)	76 (▲4)	551 (32)	3,720 (47)	▲820 (13)	2,899 (61)
	2,353	469	249	81	518	3,672	▲834	2,838
食品事業	3,599 (170)	539 (▲17)		72 (6)	428 (61)	4,640 (220)	▲1,217 (▲50)	3,423 (170)
	3,428	557		65	366	4,419	▲1,166	3,252
ファイン事業	289 (8)			4 (▲0)		293 (8)	▲28 (▲1)	265 (6)
	280			4		285	▲26	258
物流事業	315 (16)					315 (16)	▲148 (▲13)	166 (3)
	299					299	▲135	163
その他事業	465 (44)			1 (▲0)		467 (44)	▲100 (62)	366 (106)
	420			1		422	▲163	259
仮計	7,099 (316)	983 (▲43)	218 (▲30)	154 (1)	979 (93)	9,436 (337)		
	6,782	1,027	249	153	885	9,099		
連結調整	▲1,921 (▲26)	▲142 (1)	▲129 (32)	▲108 (▲1)	▲13 (5)		▲2,315 (11)	
	▲1,894	▲143	▲162	▲107	▲18		▲2,326	
連結計	5,178 (289)	841 (▲42)	89 (2)	45 (▲0)	966 (99)			7,121 (348)
	4,888	883	87	46	866			6,772

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前期比)



◆日本・南米で減益。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	34 (▲8)	10 (7)	33 (▲26)	▲0 (0)	14 (2)		93 (▲24)	9 (16)	102 (▲7)	3.5 (▲0.3)
	43	2	60	▲0	11		117	▲7	110	3.9
食品事業	76 (▲8)	12 (▲1)		8 (1)	19 (▲1)		117 (▲9)	1 (▲0)	119 (▲10)	3.5 (▲0.5)
	85	13		6	20		126	2	129	4.0
ファイン事業	24 (0)			1 (▲0)			25 (0)	0 (0)	26 (0)	9.9 (0.0)
	23			1			25	0	25	9.8
物流事業	19 (0)						19 (0)	▲0 (▲0)	19 (0)	11.9 (0.1)
	19						19	0	19	11.8
その他事業	12 (▲5)			0 (▲0)			12 (▲5)	▲0 (4)	11 (▲1)	3.2 (▲1.8)
	17			0			17	▲4	12	5.0
全社経費						▲63 (1)	▲63 (1)	0 (0)	▲62 (1)	
						▲65	▲65	0	▲64	
仮計	168 (▲20)	22 (6)	33 (▲26)	9 (1)	33 (1)	▲63 (1)	205 (▲35)			
	189	16	60	7	32	▲65	241			
連結調整	5 (4)	▲0 (▲0)	6 (15)	▲0 (▲1)	0 (2)	▲0 (▲0)		11 (20)		
	1	0	▲9	0	▲1	0		▲8		
連結計	173 (▲16)	22 (6)	40 (▲11)	8 (0)	34 (3)	▲63 (1)			216 (▲15)	3.0 (▲0.4)
	190	16	51	8	30	▲65			232	3.4

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※当期より、セグメント別の経営成績をより適切に把握するため、セグメントに帰属する販売費及び一般管理費の配賦基準を見直しており、遡及適用後の数値で前期との比較を行っている。

【参考】 2020年3月期計画 セグメントマトリックス 売上高(前期比)



◆北米・欧州が増収。日本の食品・その他事業は減収。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,458 (28)	473 (29)	318 (99)	79 (2)	553 (1)	3,882 (161)	▲895 (▲74)	2,987 (87)
	2,429	444	218	76	551	3,720	▲820	2,899
食品事業	3,503 (▲95)	589 (49)		75 (2)	453 (24)	4,621 (▲18)	▲1,172 (44)	3,449 (25)
	3,599	539		72	428	4,640	▲1,217	3,423
ファイン事業	304 (14)			4 (0)		308 (15)	▲27 (0)	281 (15)
	289			4		293	▲28	265
物流事業	322 (7)					322 (7)	▲149 (▲0)	173 (6)
	315					315	▲148	166
その他事業	308 (▲156)			1 (0)		310 (▲156)	▲100 (0)	210 (▲156)
	465			1		467	▲100	366
仮計	6,897 (▲201)	1,062 (78)	318 (99)	160 (6)	1,006 (26)	9,445 (8)		
	7,099	983	218	154	979	9,436		
連結調整	▲1,854 (66)	▲134 (8)	▲221 (▲92)	▲119 (▲10)	▲15 (▲1)		▲2,345 (▲29)	
	▲1,921	▲142	▲129	▲108	▲13		▲2,315	
連結計	5,043 (▲135)	928 (86)	97 (7)	41 (▲4)	991 (24)			7,100 (▲21)
	5,178	841	89	45	966			7,121

※上段は2020年3月期計画、下段は2019年3月期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

(単位:億円)

通貨名	為替影響	為替影響以外	計
USD	▲3	180	176
EUR	▲8	51	42
DKK	▲14	16	1
他	▲3	▲6	▲9
計	▲30	241	210

【参考】 2020年3月期計画 セグメントマトリックス 営業利益(前期比)



◆日本の水産・食品事業が増益。アジア、ヨーロッパが減益。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	60 (25)	11 (1)	51 (17)	1 (1)	11 (▲2)		135 (42)	▲1 (▲11)	134 (31)	4.5 (0.9)
	34	10	33	▲0	14		93	9	102	3.5
食品事業	90 (13)	19 (6)		4 (▲4)	16 (▲3)		130 (13)	▲1 (▲3)	129 (9)	3.7 (0.3)
	76	12		8	19		117	1	119	3.5
ファイン事業	27 (2)			0 (▲0)			27 (1)	▲0 (▲0)	27 (0)	9.6 (▲0.2)
	24			1			25	0	26	9.9
物流事業	20 (0)						20 (0)	▲0 (▲0)	20 (0)	11.6 (▲0.4)
	19						19	▲0	19	11.9
その他事業	5 (▲7)			0 (0)			5 (▲7)	▲0 (0)	5 (▲6)	2.4 (▲0.8)
	12			0			12	▲0	11	3.2
全社経費						▲75 (▲12)	▲75 (▲12)	0 (▲0)	▲75 (▲12)	
						▲63	▲63	0	▲62	
仮計	203 (35)	31 (8)	51 (17)	6 (▲3)	27 (▲5)	▲75 (▲12)	244 (38)			
	168	22	33	9	33	▲63	205			
連結調整	1 (▲3)	▲1 (▲0)	▲2 (▲8)	▲1 (▲0)	▲1 (▲2)	0 (0)		▲4 (▲15)		
	5	▲0	6	▲0	0	▲0		11		
連結計	205 (31)	30 (7)	49 (8)	5 (▲3)	26 (▲8)	▲75 (▲11)			240 (23)	3.4 (0.3)
	173	22	40	8	34	▲63			216	3.0

※上段は2020年3月期計画、下段は2019年3月期実績、右肩括弧内は増減を表わす。
 ※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。